

令和7年度 横浜市自転車等施策 検討協議会



令和8年3月27日



1

横浜市自転車活用推進計画 各施策の実施状況について

■方針

■具体の取組

方針 1

**交通ルールを
学べる環境を
つくる**

(1) 切れ目のない交通安全教育の場・機会の充実

(2) 教育・啓発・指導ができる体制づくり

方針 2

**安全・安心に
自転車を利用
できる環境を
つくる**

(1) 自転車とクルマが互いに配慮できる意識啓発

(2) 自転車保険の加入促進

(3) 安全に乗るための点検・整備方法の周知啓発

○自転車ルールへの周知

最近の道路交通法改正状況

【令和6年11月施行】

- ・携帯電話使用等の罰則強化
- ・酒気帯び運転及び同乗者の罰則強化

【令和8年4月施行】

- ・自転車等の交通反則通告制度の適用
- ・車が自転車等を追い抜く際の安全速度での進行
自転車等は道路の左側端を通行

○自転車乗車時のヘルメットの着用率向上

	神奈川県	東京都	埼玉県	千葉県	全国平均
令和6年	8.9%(41位)	15.1%	9.2%	6.5%	17.0%
令和7年	12.6%(32位)	15.0%	10.6%	7.9%	21.2%

※着用率は向上しているが
全国平均以下の状況

	1位	2位	3位
R6	愛媛69.3%	大分48.3%	群馬40.4%
R7	愛媛70.3%	大分53.7%	山口49.9%

＜警察庁調査 R6.7月1日～19日 R7.6月2日～30日＞

切れ目のない交通安全教育の場・機会の充実

世代に応じた交通安全教育の実施

幼児

■ 幼児交通安全訪問指導

- ・市内幼稚園・保育所等で幼児を対象にパペット指導や就学前指導を実施
- ・R7年度実績:358園(見込分含む)
- ・R8年度予定:約360園



小学生

■ はまっ子交通あんぜん教室

- ・市内小学校で**小学3～6年生を対象**に、警察署や交通安全協会、区役所が連携し 自転車の点検・整備、正しい乗り方、交通ルール、**ヘルメット着用の有効性**等を指導
- ・R7年度実績:299回、参加者 27,197名
- ・R8年度予定:281回



■ 放課後キッズクラブ交通安全教室

- ・市内放課後キッズクラブで**小学生を対象**に「こども・安全安心マップ」を活用した交通安全マップの作成などのグループワークを実施
- ・R7年度実績:**交通安全推進校9校を中心に実施**
参加者約900名
- ・R8年度予定:**交通安全推進校5校を中心に実施**



切れ目のない交通安全教育の場・機会の充実

中学生・高校生

成人

■ 中学生・高校生向け自転車交通安全教室

市内中学校・高校等で**中学生・高校生を対象**に、自転車の交通ルール・マナーを学ぶ交通安全教育を座学講義形式で実施。

【指導内容】

自転車の通行場所、年齢によって適用される自転車ルール、自転車保険の加入の必要性、**自転車ヘルメット着用努力義務化、電動キックボードの安全利用**...など

- ・R7年度実績:19校、参加者4,841名
- ・R8年度予定:20校



■ スケアード・ストレイト方式自転車交通安全教室

市内で**中学生や高校生などを対象**にスタントマンによる**自転車事故再現等**を実施

- ・R7年度実績:11回
- ・R8年度予定:12回

■ 幼児保護者向け交通安全教室

市内幼稚園・保育所等で**幼児保護者を対象**に交通安全教室を実施

【講義内容】

道路交通法、標識、ヘルメット非着用時の衝撃実験結果等について

- ・R7年度実績:9回
- ・R8年度予定:6回



■ 高齢者「シルバーリーダー」養成研修会

地域等で自主的に活動するリーダーの養成

- ・R7年度実績:2回
- ・R8年度予定:2回

1 教育の場や家庭で活用できる動画、チラシ等による啓発

○動画

幼児向け交通安全教育動画



家庭でも、気軽に交通安全のルールを学べるように実写とアニメーションを組み合わせた動画を作成し、YouTubeで公開しています。

■再生回数 約10,500回 (8年3月時点)



児童向け交通安全教育動画



学校や家庭で、自転車の走り方や標識のルールなどを学べるように全10本の動画を作成しました。YouTubeでも公開しています。

■再生回数(10本計) 約22,000回(8年3月時点)

○チラシ、リーフレット

道交法改正の内容を加えたものにリニューアル



サイクルルールブック



幼児保護者向けリーフレット



自転車チラシ

2 SNS等を活用した交通反則通告制度（青切符）等の周知

最も自転車事故の死傷者が多い16歳を中心とした若い世代をはじめ、子育て世代等より多くの世代に届けられるような取組を新たに実施しています

・X（エックス）による周知（7月～）



・パマトコ等のWEB周知（3月～）



自転車の法改正、2026年4月から何が変わるの？

青切符で反則金も！？

ルールちゃん、まもるくんと一緒に学ぼう！

#おいしいよこほま #おトクなよこほま #お買い得 #おでかけ #親子でたのしみ #ペイエリア #美観守る

自転車交通ルールのきほん

自転車を利用する際の交通ルールをわかりやすくまとめています。自転車に乗る前にもう一度確認しましょう！
※本市では周知・啓発を行っています。交通違反や取締りについては警察にお問い合わせください。

▼ はじめに ▼ 自転車安全利用五則 ▼ 青切符・反則金 ▼ 自転車保険 ▼ 自転車用子・チラシ

自転車はクルマの仲間です！



自転車は、道路交通法で「軽車両」に位置付けられており、クルマやバイクなどと同じ「車両のなかま」です。交通ルールを遵守するとともに交通マナーを実践するなど安全運転をお願いします。



3 民間企業との連携

①横浜DeNAベイスターズと連携したヘルメット着用啓発運動(令和7年7月)

自転車用ヘルメットの着用率向上に向け、横浜DeNA ベイスターズと連携したヘルメット着用を選手が呼びかける広報啓発を市内各所で実施しました。

<選手メッセージ動画をデジタルサイネージ、SNS等で放映>

18区役所や市内鉄道駅等にて動画を放映しました。

また、XやYoutubeにも投稿しています。

再生数 約3.7万回

X投稿の閲覧数 約18万回



やまもと ひろあき
山本 拓大選手(背番号 #50)



もり けいと
森 敬斗選手(背番号 #6)

<啓発ポスター及びチラシを市内各所に掲示>

選手を起用したポスター及びチラシを横浜市内各所にて掲示しました。

(7月1日から7月31日)

■ポスター掲示

- ・市立小学校・中学校・高校・特別支援学校
- ・市内区民利用施設(地区センター、コミュニティハウス)ほか

■チラシ配布

- ・夏の交通事故防止運動期間の街頭キャンペーン
- ・市内区民利用施設(地区センター、コミュニティハウス)ほか



ポスターデザイン

教育・啓発・指導ができる体制づくり

②生徒が自ら企画した自転車交通安全教室(横浜商業高校)

令和7年12月に市立横浜商業高校において生徒との企画による寸劇・パネルディスカッションを通じて自転車ルール・ヘルメット着用の大切さについて学びました。

【パネルディスカッションでの意見】

- ・デザイン性のあるヘルメットがあるといいと思った
- ・ルールを守る大切さがわかった

【参加事業者・団体】

- ・株式会社横浜DeNAベイスターズ
- ・三井住友海上火災保険株式会社
- ・株式会社オージーケーカブト ・神奈川県南警察署



ヘルメットを被り高校生
へメッセージ(佐野選手)



豆腐を使ったヘルメットの
安全性実験(山本選手)

③中学3年生を中心とした自転車教室

市内の自転車事故の多い区の中学3年生を中心に、自転車関連企業によるヘルメット着用や反則金制度などの自転車ルールを学ぶ教室を令和8年2月～3月に実施しました。

【実施校】

鶴見区・港北区・泉区の中学校（5校）

【生徒からの主な意見】

- ・細かいルールを知れてよかった
- ・標識を意識してみようと思った

【参加事業者】

- ・パナソニックサイクルテック株式会社 ・ヤマハ発動機株式会社
- ・ブリヂストンサイクル株式会社
- ・株式会社あさひ（サイクルベースあさひ）
- ・損害保険ジャパン株式会社 ・株式会社ドコモ・バイクシェア

自転車とクルマが互いに配慮できる意識啓発

「思いやりSHARE THE ROAD運動」の啓発

市内交通事業者の協力を受け、市内を営業するバスやタクシー等約2,500台にステッカーの貼付を依頼し、SHARE THE ROAD運動を啓発しています、また7年3月より「自転車が道路の左側端を通行すること」や、自転車乗車時のヘルメット着用努力義務化を踏まえた「誰にでも分かりやすい」新デザインとしました。

事業者	配布数	事業者	配布数	事業者	配布数
京浜急行バス株式会社	150枚	神奈川中央交通株式会社	570枚	株式会社フジエクスプレス	5枚
江ノ島電鉄株式会社	50枚	東急バス株式会社	330枚	大新東株式会社	20枚
川崎鶴見臨港バス株式会社	110枚	相鉄バス株式会社	230枚	神奈川県タクシー協会 横浜支部	1,000枚



参考：神奈川中央交通株式会社



新デザイン

自転車保険の加入促進

自転車保険の加入状況調査、広報啓発

■ 自転車保険の加入状況

自転車利用者に対して、保険の加入状況についてアンケート調査を実施しました。

＜対象＞ヨコハマeアンケートメンバー、駐輪場利用者

	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
自転車保険加入率	68.4%	77.7%	78.5%	83.9%	84.9%	85%

■ 自転車保険の広報啓発

自転車保険の加入促進に向けて、鉄道駅など利用者の多い場所を中心に、効果的な広報を実施しました。

実施場所	実施数	期間
市営地下鉄 車内ビジョン	ブルーライン・ グリーンライン全線	令和8年2月 (1週間)
WEB広告 (Google媒体)	閲覧数：約75万PV クリック数：約5千回	令和8年2月～ 3月の15日間



■方針

■具体の取組

方針 1

地域の自転車
ネットワークを
つくる

(1) 重点エリアでの自転車通行空間の整備推進

(2) 都心臨海部における自転車利用環境づくりの推進

方針 2

地域をつなぐ
広域ネットワーク
をつくる

広域的な自転車ネットワークの形成

方針 3

安全で快適な
自転車通行環境を
つくる

自転車通行環境の快適性向上

自転車通行空間の整備状況

令和7年度の事業箇所

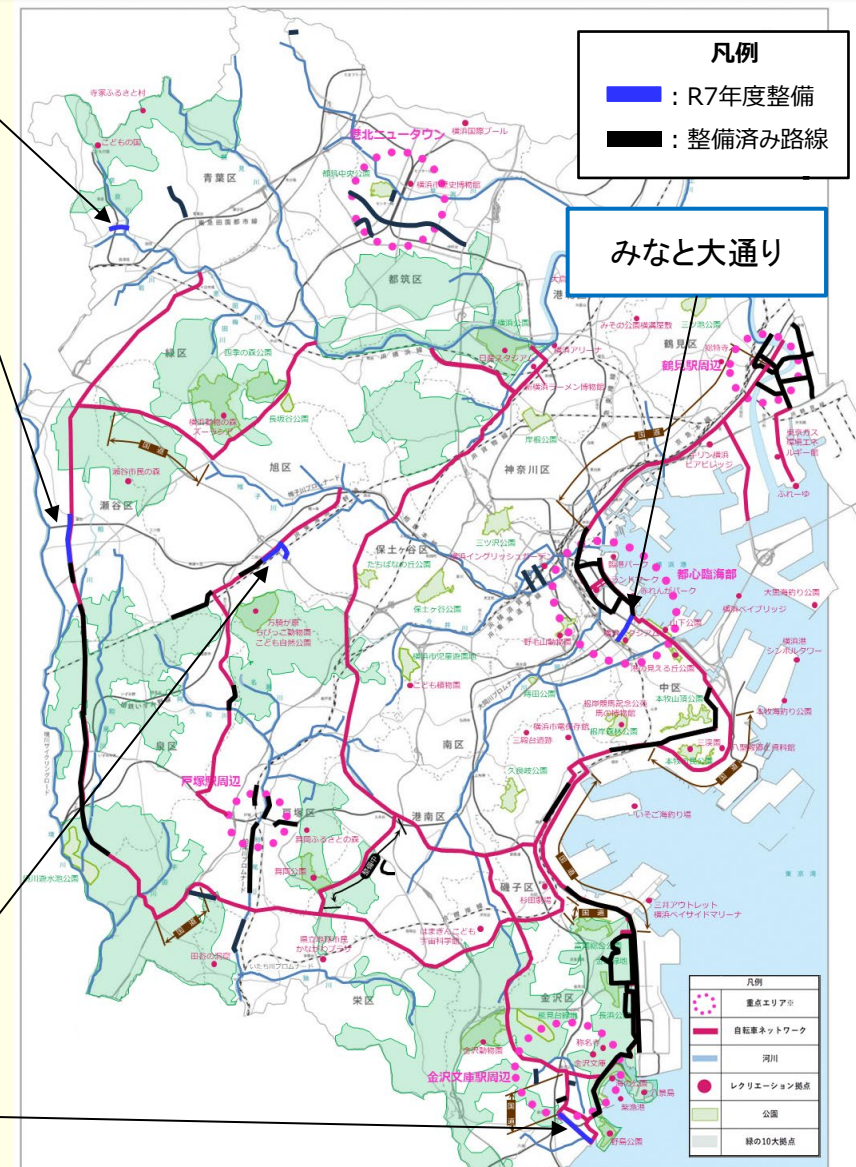
路線名・地区名	延べ延長 (km)	整備形態
環状4号線 (下瀬谷地区)	2.6	自転車専用通行帯 矢羽根型路面表示
川崎町田線	2.0	自転車道 (市内初整備) 矢羽根型路面表示
鴨居上飯田線 保土ヶ谷二俣川線	2.4	矢羽根型路面表示
みなと大通り	1.4	自転車専用通行帯 矢羽根型路面表示
平潟第104号線	2.2	矢羽根型路面表示
合計	10.6	

川崎町田線

環状4号線
(瀬谷区)

鴨居上飯田線
保土ヶ谷二俣川線

平潟第104号線



自転車ネットワークでの整備推進

■ 環状4号線（瀬谷区）

「瀬谷中学校前」交差点から「下瀬谷二丁目」交差点手前の区間を整備。



R7 整備箇所

都市計画道路での整備推進

川崎町田線

都市計画道路の整備に伴い、堀の内から恩田の交差点間を自転車道で整備。

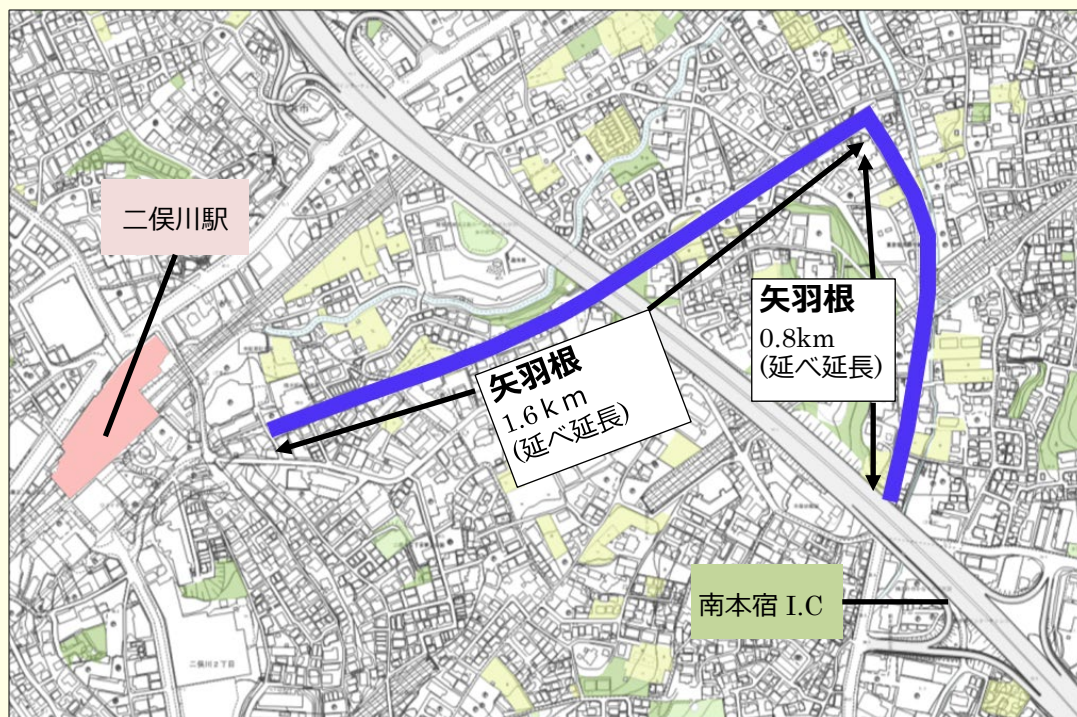


R7 整備箇所

都市計画道路での整備推進

■ 鴨居上飯田線、保土ヶ谷二俣川線

都市計画道路の整備により二俣川駅付近から南本宿IC付近の交差点間を整備。



R7 整備箇所

都市計画道路での整備推進

■ みなと大通り

「関内駅南口」交差点から「横浜税関」交差点間を整備。

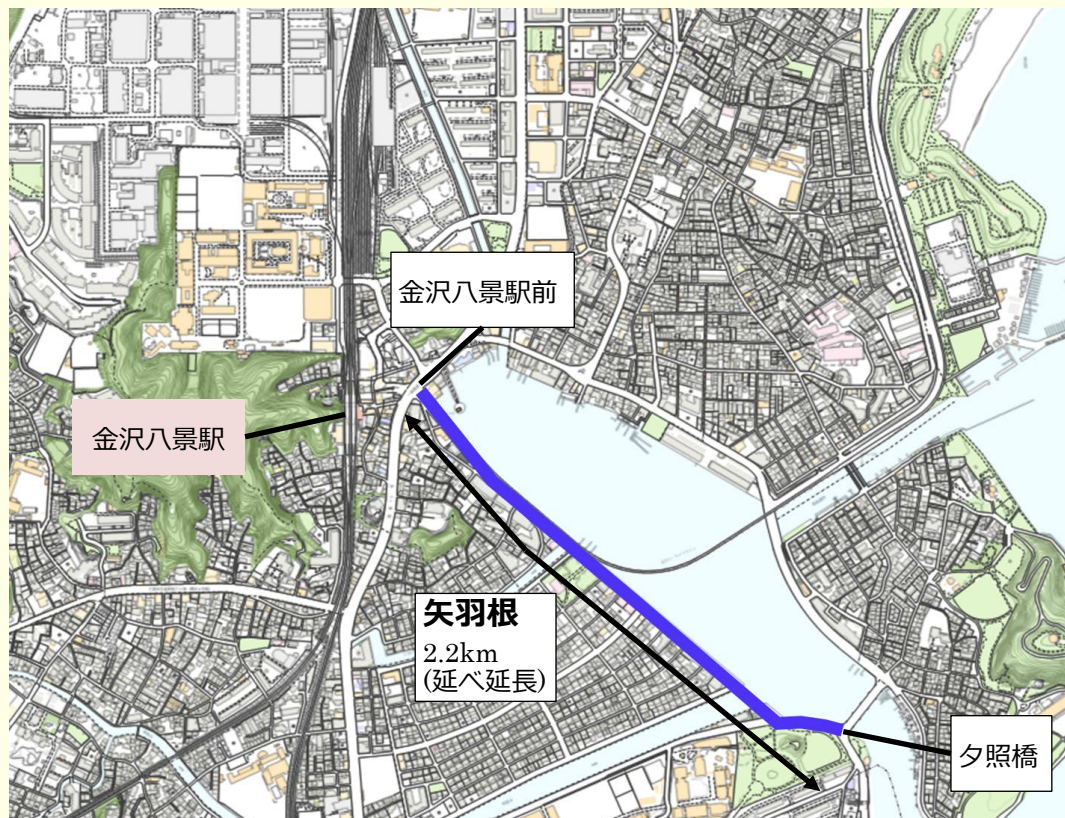


R7 整備箇所

都市計画道路での整備推進

■ 平潟第104号線

「金沢八景駅前」から「夕照橋」交差点間を整備



R7 整備箇所

○矢羽根型路面表示の設置基準

- ・ 矢羽根型路面表示とピクトグラムの設置は、国のガイドラインを準用

		安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン (国土交通省・警察庁)【令和6年6月】	現行基準	
矢羽根	単路部	・ <u>設置間隔は10mを標準</u> ・ <u>郊外部では視認性を考慮したうえで10mよりも広い間隔(上限100m程度)で設置</u>	10m間隔	
	交差点等	・ <u>自動車と自転車の交錯の機会が多い区間等は密にする</u>	1m間隔	
ピクトグラム	単路部	・ <u>交差点部の前後や自動車と自転車の交錯の機会が多い区間等の設置を基本</u>	30m間隔	
	交差点等	・ <u>単路部におけるピクトグラムは、矢羽根型路面表示よりも広い間隔で設置</u>	交差点の起終点	

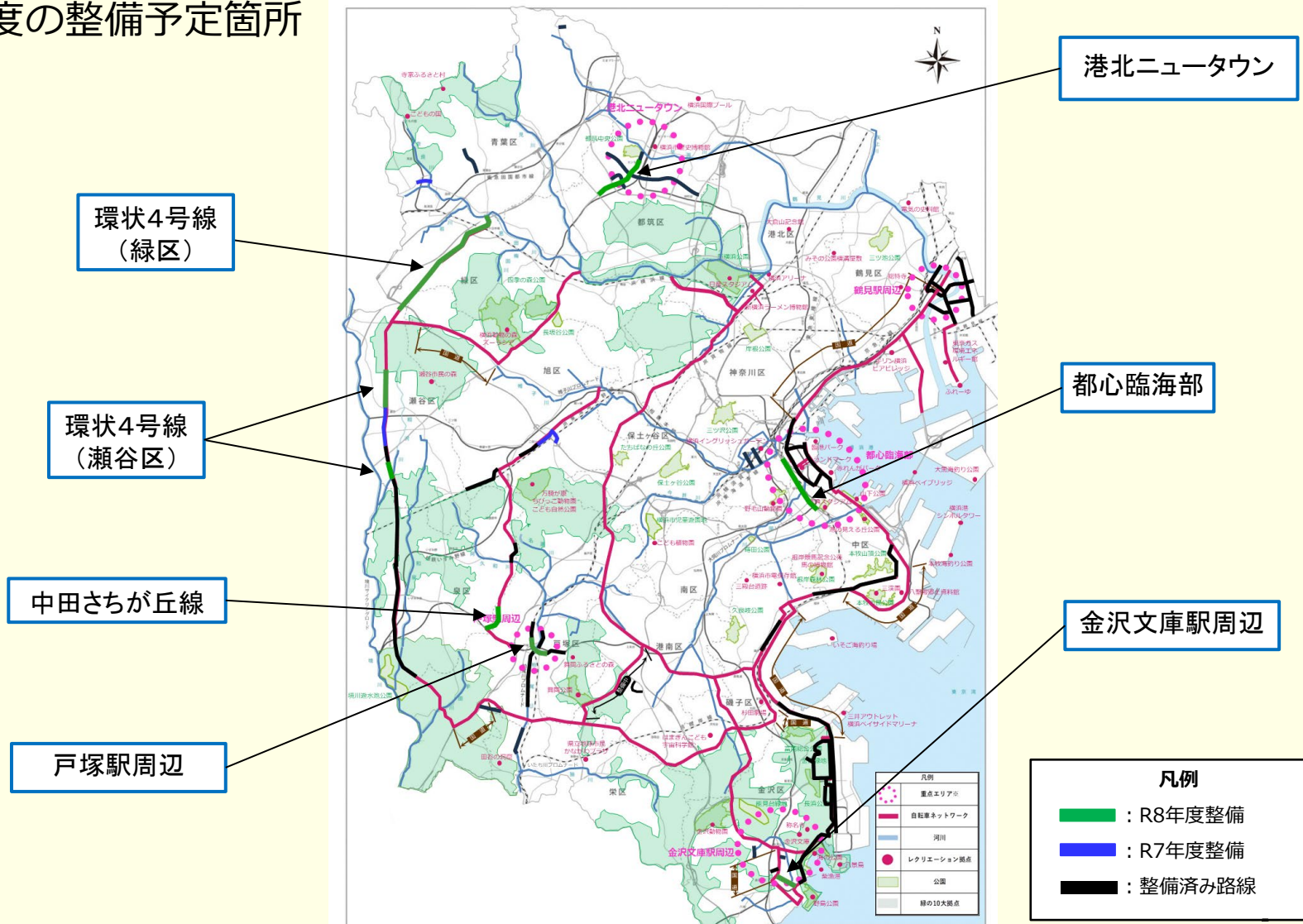
はしる 今後の整備の考え方

○整備基準の見直し

		現行基準	改定案	
矢羽根	単路部	10m間隔	<u>30m間隔を標準</u> ※NW路線など見通しのいい区間 では <u>60m間隔</u>	
	交差点部	1m間隔	<u>3m間隔</u>	
ピクトグラム	単路部	30m間隔	<u>設置なし</u>	
	交差点部	各交差点の起終点	信号または横断歩道あり：設置する (起点部のみ) 信号かつ、横断歩道なし：設置なし	

自転車通行空間の整備予定路線

令和8年度の整備予定箇所



自転車通行空間の整備予定路線

■ 令和8年度の整備予定路線

地区・路線名		整備形態(予定)	延べ延長 (km)
重点 エ リ ア	港北ニュータウン	矢羽根型路面表示	2.5
	戸塚駅周辺	矢羽根型路面表示	2.5
	都心臨海部	矢羽根型路面表示	4.0
	金沢文庫駅周辺	矢羽根型路面表示	2.0
N W 路 線	環状4号線(瀬谷区)	自転車専用通行帯	3.9
	中田さちが丘線(泉区)	自転車専用通行帯 矢羽根型路面表示	2.0
	環状4号線(緑区)	矢羽根型路面表示	9.1
そ の 他	地域要望路線	矢羽根型路面表示	1.0
	シェアサイクル移動データに基づく 自転車走行環境整備	矢羽根型路面表示	4.0
		計	31.0

■方針

■具体の取組

方針 1

目的に応じた
駐輪場の「量」
を確保する

(1) 買い物等の集客施設での利用に応じた駐輪場の確保

(2) 鉄道利用等に対応した駐輪場の拡充

方針 2

サービスの
「質」を高める

(1) 市営自転車駐車場のサービス向上

(2) 持続可能な市営駐輪事業のしくみ構築

方針 3

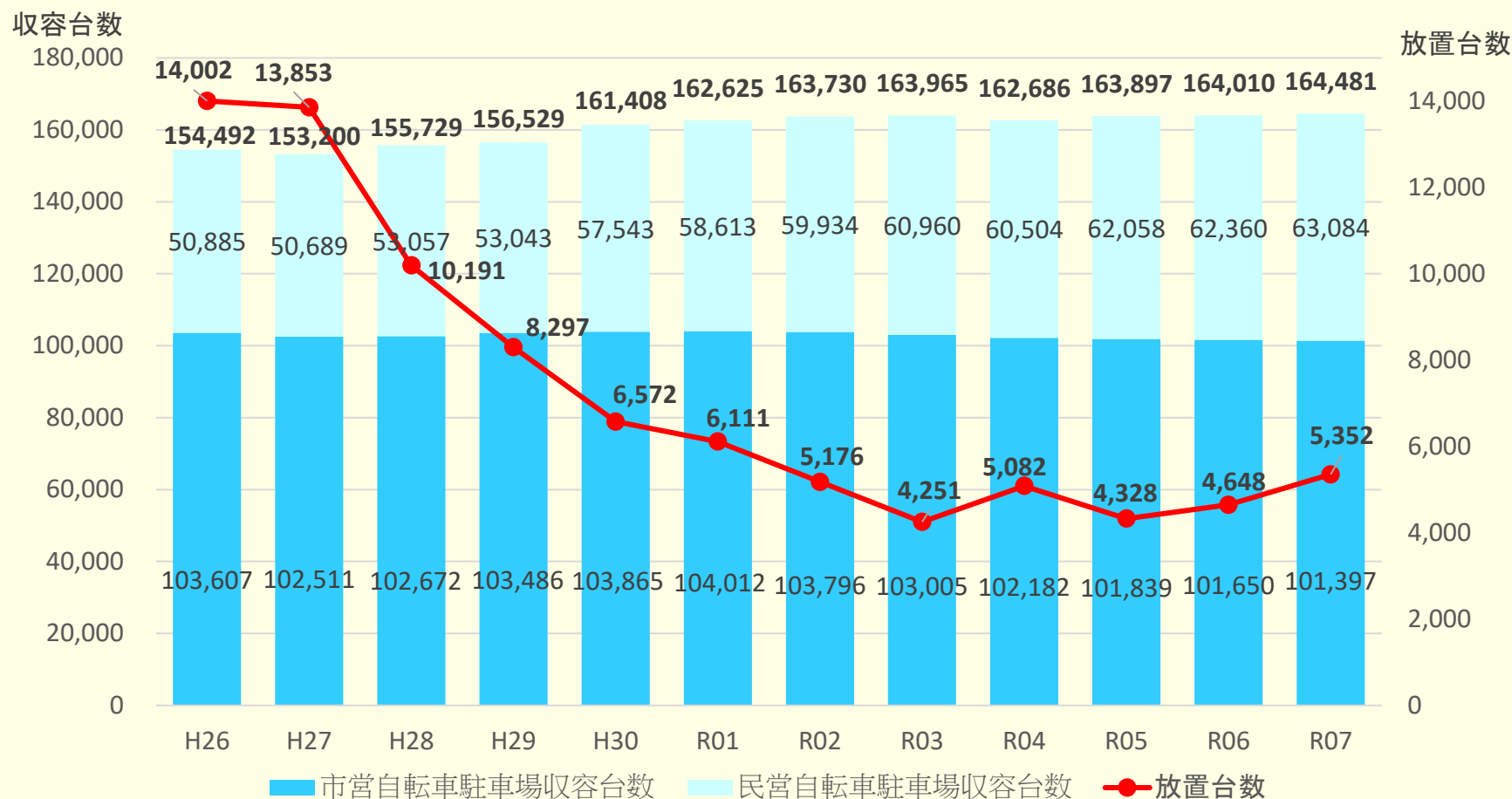
まちに適した
駐輪対策を進める

地域、民間、行政の連携による駐輪対策の実施

駐輪場収容台数及び放置自転車台数の推移

- 自転車駐車場の収容台数は、約165,000台程度で推移
- 放置自転車台数は、10年で約3分の1まで減少も、最近は、ほぼ横ばい傾向

※市営自転車駐車場は無料箇所を含む



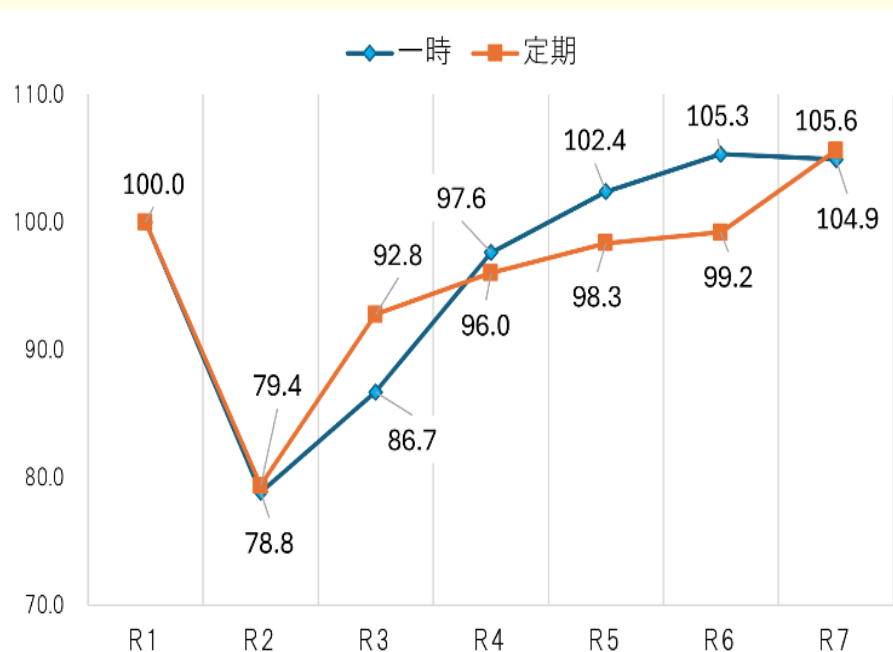
地域の実態に即した駐輪場の量の確保

● 既存の市営自転車駐車場におけるスペースの有効活用

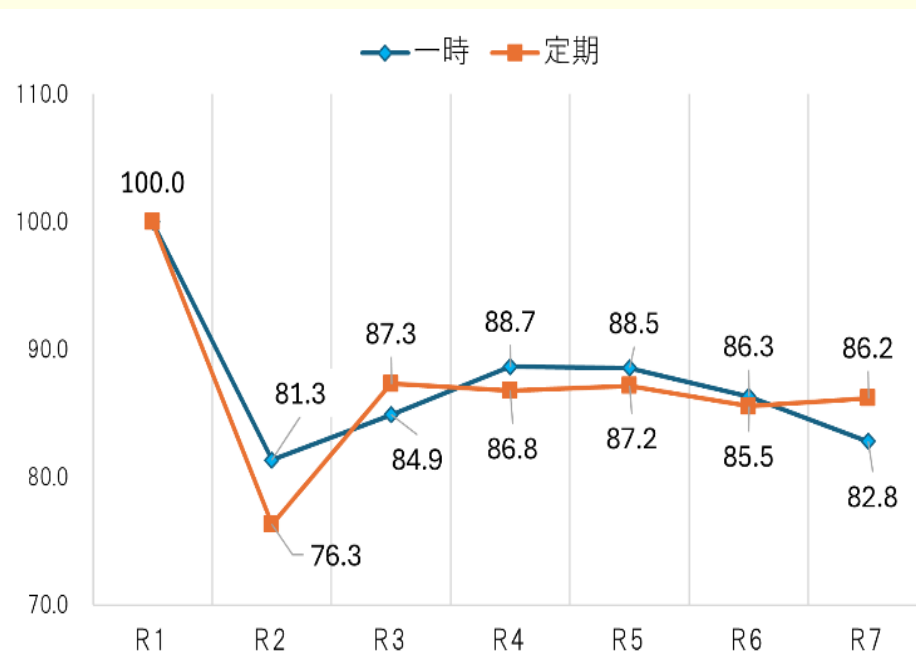
- ・バイク区画から自転車区画への転換による、自転車の収容台数の確保（令和7年度：約30か所で実施）
- ・旧管理室の撤去及び駐輪スペース化による、収容台数の確保（令和7年度：2か所で実施）

<市営自転車駐車場の利用状況の推移>

【自転車】



【バイク】



※ R1年度（新型コロナウイルス感染症の影響が出る前）を100とした場合の、R2年度～R7年度の利用状況の推移。
なお、R7年度は、4月～10月までの上半期の累計値。

地域の実態に即した駐輪場の量の確保

● 収容台数不足が顕著な駅周辺における、市営自転車駐車場の新設・拡張

- ・ 自転車駐車場附置義務条例や民営自転車駐車場整備費補助事業等による民設民営での整備促進に加え、収容台数が特に不足している駅周辺においては、市営自転車駐車場の新設・拡張を進めます。

<駐輪場用地の確保策>

幅員に
余裕のある
歩道上

道路区域
における
不法占用跡地

駅前開発
に合わせた整備

民地の借上げ
(駐車場用地等)

平面式
→立体化

駅周辺における
事業余剰地

高架下
(鉄道・高速道路等)

<市営新設・拡張の一例>

新横浜駅 約120台



8年度上半期 オープン予定

横浜駅東口 約100台



R8年度上半期 オープン予定

花月総持寺駅 約50台



R8年度上半期 オープン予定

駐輪場の附置義務制度の運用状況

- **自転車駐車場の附置**を義務付ける条例の義務規定を適用した運用を、令和元年度から開始
- 該当する施設の新築・増築の機会を捉えて、附置義務による自転車駐車場の整備を促進

自転車駐車場附置義務条例 適合確認件数等（R7年4月～R8年2月末時点）

	件数	附置台数	設置台数
集客施設	20 件	830 台	960 台
共同住宅等	334 件	7,198 台	8,876 台
複合施設※	3 件	96 台	107 台
合計	357 件	8,124 台	9,943 台

※ 1つの施設内に集客施設と共同住宅等が両方含まれるもの

市営自転車駐車場における電磁式ラックの導入促進

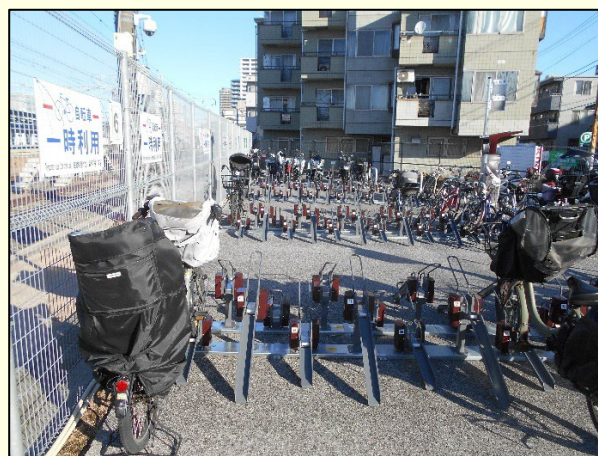
- 新たに**16施設**で電磁式ラックを導入し、設置箇所はこれまでの**約2倍に拡大**

電磁式ラックの導入は、不正利用の防止や、場内の整理整頓された環境づくりにつながります。さらに、電磁式ラックと連動した満空情報をインターネット上でリアルタイムに公開することで、利用者は自宅を出る前に空き状況を確認でき、放置自転車の防止にも効果が期待できます。

<電磁式ラック導入の一例（7年度整備）>



【港南中央駅自転車駐車場】



【矢向駅自転車駐車場】



【希望ヶ丘駅自転車駐車場】

■方針

■具体の取組

方針 1

健康的な
「ライフスタイル」
にいかす

(1) 自転車を活かした健康づくりの支援

(2) サイクルスポーツへの興味を高める取組推進

方針 2

横浜らしい
「まちづくり」
にいかす

(1) 観光や賑わいのあるまちづくりでの自転車活用の推進

(2) まちづくりと連携した自転車活用の推進



イベント名	青葉区の「縁」めぐりデジタルスタンプラリー	あおばシェアサイクルチャレンジ
概要	公園や史跡などの15か所のポイントを徒歩や自転車、公共交通機関等、CO2排出量の少ない方法で巡り、スタンプを集めるデジタルスタンプラリー。 スマートフォンがあれば参加でき、スタンプ数に応じて、地元の特産品などの景品に応募可能。	移動における脱炭素化やシェアサイクルのさらなる利用増進に向けて、期間中におけるシェアサイクルの利用回数を競うランキングイベント。 ハローサイクリングであれば、どこの利用でもOK
開催期間	令和7年9月13日（土）～11月24日（月・祝）【同時開催】	
対象者	誰でも参加可能	青葉区に在住・在勤・在学の方
景品	青葉区特産品、なしかちゃんグッズ、図書カード（パーフェクト賞、9ポイント賞、3ポイント賞）	図書カード、ハローサイクリング利用クーポン（1～3位賞、10・20・30位賞、参加賞）



今回は両方のイベントに参加した方への「**Wチャレンジ賞**」を設置



イベントを通してより自転車を活用してもらいたい



青葉区の「緑」めぐりデジタルスタンプラリー

参加者の声

- ・ 青葉区の広さや緑の多さを実感できたとともに、新たな発見があった。
- ・ 家族みんなでそれぞれ自転車に乗って参加したが、とても快適で楽しかった。
- ・ いい運動になった。またこうしたイベントがあれば、参加したい。

など

参加者数

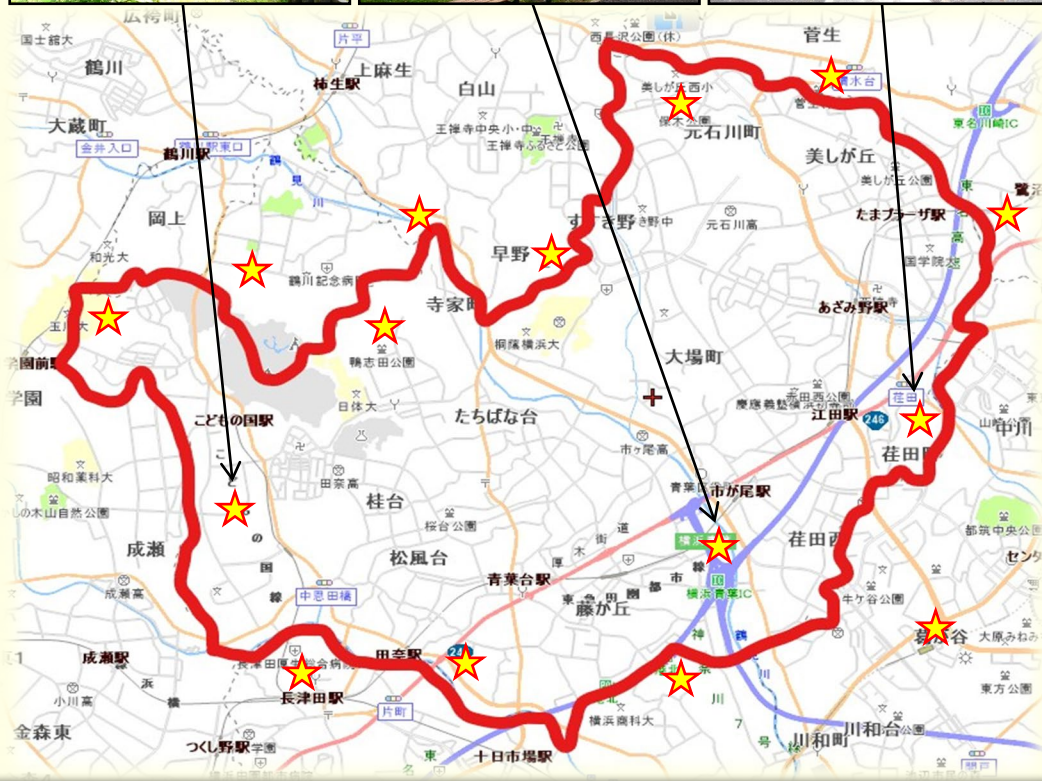
・ **125名**

〔うち86名が
プレゼントに応募〕

スタンプポイント一覧

- ① 谷本公園
- ② 鴨池公園 (都筑区)
- ③ 劔神社
- ④ 鷺沼公園 (川崎市)
- ⑤ 菅生緑地 (川崎市)
- ⑥ 保木薬師堂
- ⑦ 早野聖地公園 (川崎市)
- ⑧ 恩廻公園 (川崎市・町田市)
- ⑨ 寺家ふるさとの森
- ⑩ FC町田ゼルビア三輪緑山ベース (町田市)
- ⑪ 奈良川源流域の谷戸
- ⑫ 奈良しぜん緑地
- ⑬ 緑区民文化センターみどりアートパーク (緑区)
- ⑭ 神鳥前川神社
- ⑮ 北八朔公園 (緑区)

次年度以降もより自転車やシェアサイクルを
活かしたイベントを検討中



金沢区サイクルツーリズムサービス×シェアサイクルの連携

概要



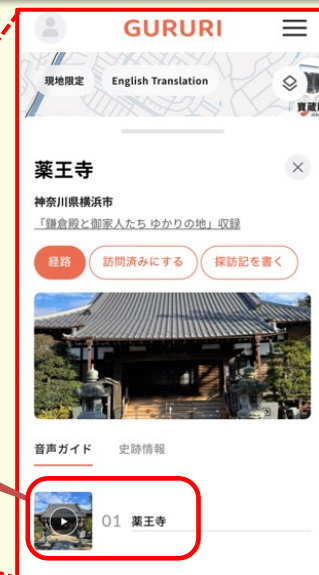
〜自転車でするおすすめコース〜

金沢区では、位置情報型音声ガイド・情報サービス「GURURI」を活用し、サイクルツーリズム向けのおすすめコースを設定。スマートフォンで、現在地とコース上の各スポットを地図で確認したり、名所の音声案内を聞くことができ、歴史、自然、ショッピング等の魅力が満載である金沢区を自転車で巡って楽しむことができる。

今年度は、GURURI内の地図上にシェアサイクルポートの位置や収容台数、アプリへのリンク等を掲載するようアップデートし、シェアサイクルとの連携を強化。

⇒サイクリストだけでなく、シェアサイクルの利用を通じて、より多くの方に気軽に自転車を活用してもらう狙い

【GURURI画面イメージ】

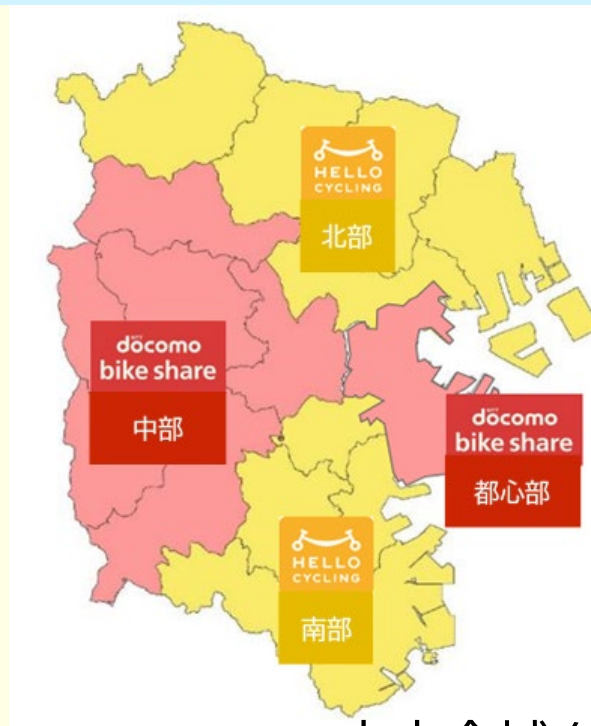


横浜市シェアサイクル事業の取組

横浜市シェアサイクル事業(R7.4~)

令和6年度まで

- ・都心部事業（横浜都心部）
- ・広域社会実験（北部、中部、南部）



令和7年度から
横浜市シェアサイクル事業
（市内全域）



市内全域を1つの事業区域とすることで
シームレスな移動サービスの提供を図っています。

横浜市シェアサイクル事業の取組

横浜市シェアサイクル事業(R7.4～)

事業区域：横浜市全域

事業目的：

市内全域の移動の利便性向上

都市の活性化

脱炭素社会の形成

交通安全の推進

事業期間：R7.4～R12.3末(5年間)

ただし協働事業の取組実績をもとに、横浜市自転車等
施策検討協議会の皆様の意見を踏まえ、最大で5年間
(R17.3末)まで延長できるものとします

事業手法：公募型プロポーザル方式で選定した事業者と
公民連携での協働事業により推進

協働事業者：株式会社ドコモ・バイクシェア及びOpenStreet株式会社の共同事業体
(幹事者：株式会社ドコモ・バイクシェア)



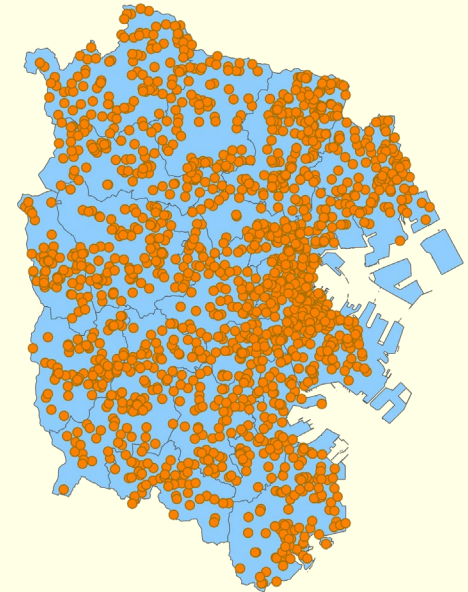
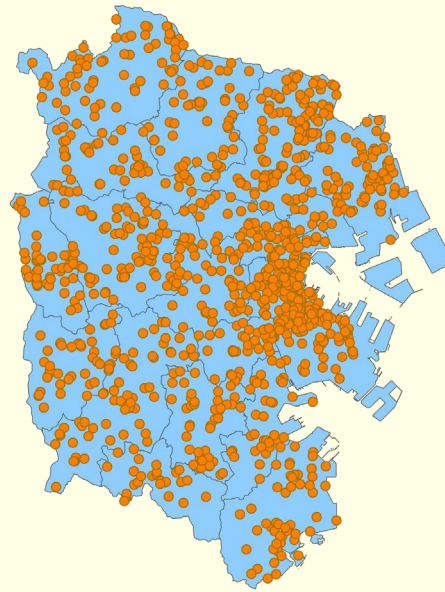
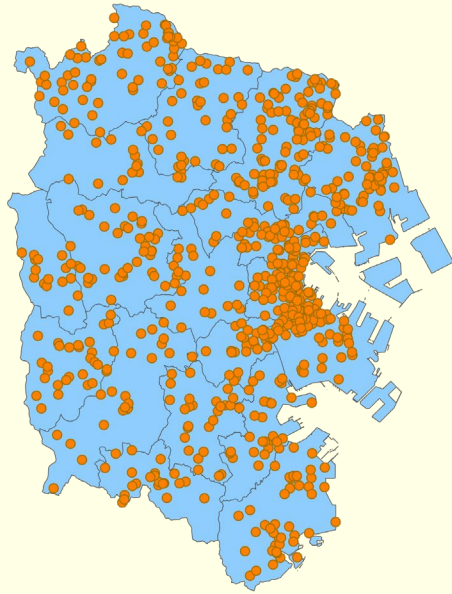
横浜市シェアサイクル事業の取組状況

● 現在の事業の進捗状況

※実施期間中最大値

時点	ポート数	ラック数	利用回数/月	利用者数/月
R5年度(R6.3)	530箇所	4,054台	172,800回	36,900人
事業開始時 R6年度(R7.3)	745箇所	5,608台	203,700回	47,800人
現在 R7年度(R8.2)	1,096箇所	8,165台	※302,200回	※64,800人
事業目標値 R16年度(R17.3)	1,414箇所	10,000台	320,000回	113,000人

横浜市内のシェアサイクルポート設置状況



令和7年3月

▶平均ポート密度

2.21ポート/km²

▶ポート数

745箇所

令和8年2月

▶平均ポート密度

3.25ポート/km²

▶ポート数

1,096箇所

令和17年3月

▶平均ポート密度

約4ポート/km²

▶ポート数

1,414箇所

横浜市内のシェアサイクルポート設置状況

種別		R8年2月末時点 設置数					
		全域	広域				都心部
				北部区域	中部区域	南部区域	
公有地	庁舎等施設	56	42	15	13	14	14
	道路	131	120	24	60	36	11
	公園	65	44	11	17	16	21
	駐輪場	75	65	26	22	17	10
	港湾	5	1	0	0	1	4
	その他	27	27	10	14	3	0
	小計	359	299	86	126	87	60
民有地		737	600	282	206	112	137
合計		1,096	899	368	332	199	197

交通空白地における移動実績

交通空白地における移動実績

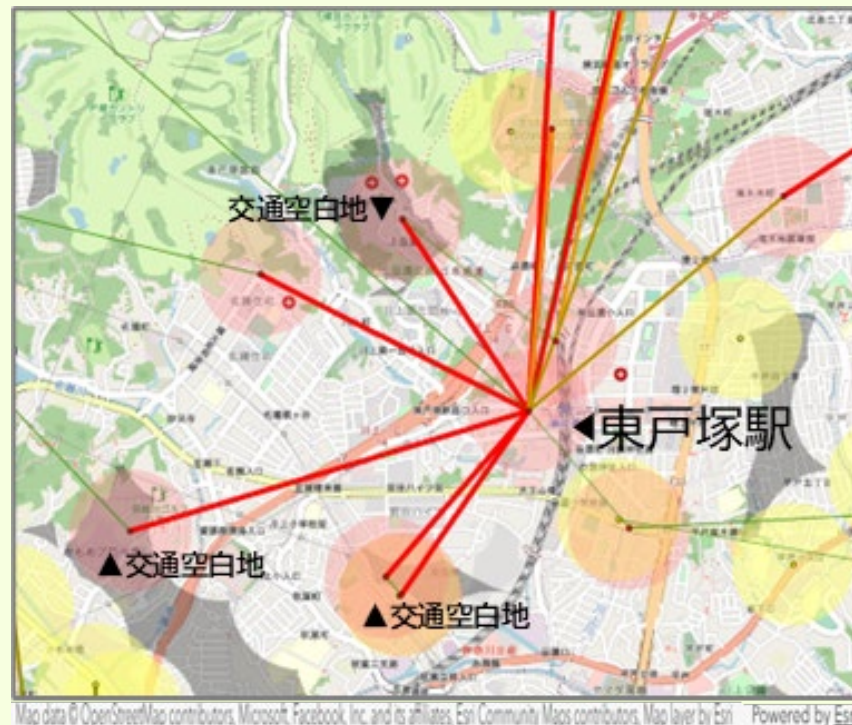
駅やバス停から離れた公共交通圏域外（いわゆる交通空白地）に設置したシェアサイクルポートにおいて多くの利用がみられ、移動ニーズに対応できていることが確認できます。

横浜市シェアサイクル事業移動データマップ公開先URL

<https://yokohama-bicycle.maps.arcgis.com/apps/instant/sidebar/index.html?appid=27ac7d84c5974def9d98bfe8f7f5e228>

本サービスは横浜市がサービス利用契約しており、ドメインは本市のものとは異なりarcgis.comです。
(横浜市インターネット受発信ガイドライン第6条第4項により協議済)

東戸塚駅周辺エリア



- | | |
|----------|-------------|
| ● ドコモポート | 51回以上/月 |
| ● OSポート | 31回～50回以下/月 |
| ■ 交通空白地 | 11回～30回以下/月 |

共同ポートの運用開始

共同ポートの運用開始

(令和7年6月～)

異なる事業者の車両であっても自由に利用・返却が可能な「共同ポート」の運用を全国で初めて開始し、1月には市内全域の公有地ポートで共同ポート化が実現しました。

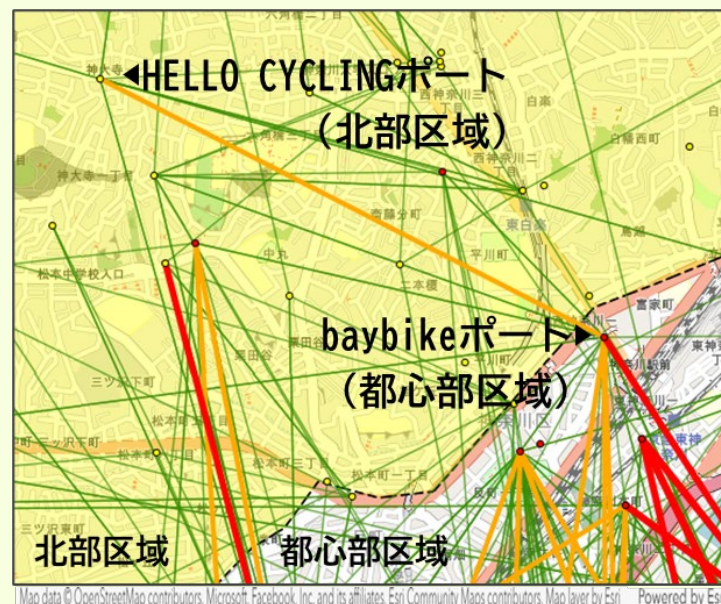
共同ポートの設置により、社会実験の区域を越えた移動が生まれていることが横浜市シェアサイクル移動データマップから確認できます。

(右図：都心部区域のbaybikeポートと北部区域のHELLO CYCLINGポートを結ぶ移動実績を確認)

▶共同ポート数 (令和8年2月時点)
449箇所 (全体の約41%)



◀横浜市役所
(共同ポート)



- | | |
|----------|-------------|
| ● ドコモポート | 51回以上/月 |
| ● OSポート | 31回～50回以下/月 |
| ■ 交通空白地 | 11回～30回以下/月 |

移動データに基づく自転車走行環境整備

シェアサイクル移動データに基づく自転車走行環境整備 (令和8年度～)

シェアサイクル移動データを活用し、利用者が多く通行する走行ルートや自転車利用を促していきたい路線を抽出したうえで、当該路線における自転車の走行環境整備を行います。

自転車走行環境の整備例



矢羽根型路面表示



自転車ピクト

データの活用イメージ

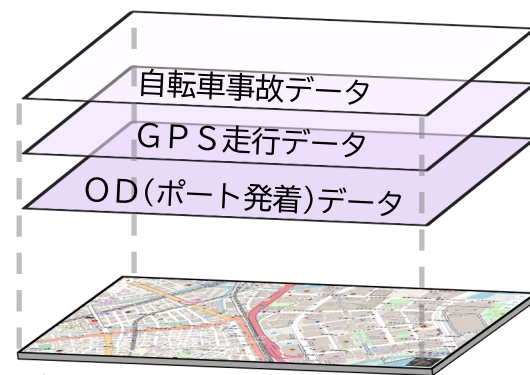
様々なデータの重ね合わせ



自転車走行環境優先整備路線が見える化



交通状況や道路幅員などを確認



シェアサイクルポート分布図

交通安全啓発の取組

交通安全啓発の取組

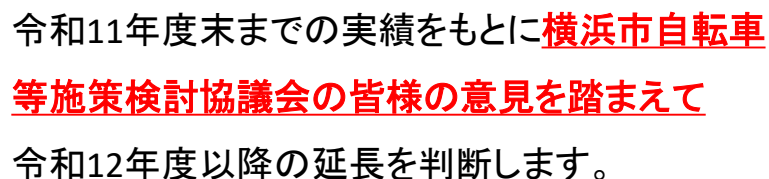
シェアサイクル事業における交通安全啓発の取組として、協働事業者と連携して、イベントでのヘルメットプレゼントキャンペーン及び交通安全教室を実施しました。



baybikeを利用した交通安全教室

日付	イベント名	場所	実施内容
令和7年11月3日(月)	シェアモビリティハブポート体験会	旧放置自転車保管場所(センター南)	シェアサイクル会員を対象にヘルメット無料プレゼントキャンペーンを実施
令和7年11月22日(土)	baybikeキッズサイクルスクール	マツダ株式会社R&Dセンター横浜	小学校低学年までの子どもを対象とした自転車の乗り方指導・ヘルメットの無料配布
令和8年2月20日(金)	交通安全教室	横浜市立義務教育学校 緑園学園	緑園学園9年生を対象にした交通安全教室の実施

今後の事業の進め方



計画推進の指標達成状況について

自転車活用推進計画の指標						実現に関連するテーマ			
指標名	計画策定時点	2024年度	2025年度	2025年度 (目標値)	2028年度 (目標値) ※計画最終年度	まもる	はしる	とめる	いかす
自転車関係 交通事故件数	2,093件 (2017年実績)	1536件 (2024年実績)	1,615件 (2025年実績)	1,600件以下	1,600件以下	○	○		
自転車通行ルールの 認知度(遵守度)	2019年度に実施予定の 市民向けアンケート調査 結果等により指標を設定	知っている 92.6% (行っている 74.9%)	知っている 92.2% (行っている 74.1%)	知っている 90% (行っている 80.0%)	知っている 90.0% (行っている 80.0%)	○			
自転車保険の 加入率	2019年度に実施予定の 市民向けアンケート調査 結果により指標を設定	83.9%	84.9%	85%	85.0%	○			
自転車通行空間の 整備延長	33km (累計・2017年度末実績)	98km (累計)	107km(実績)	103km (累計)	200km(累計)		○		

計画推進の指標達成状況について

自転車活用推進計画の指標						実現に関連するテーマ			
指標名	計画策定時点	2024年度	2025年度	2025年度 (目標値)	2028年度 (目標値) ※計画最終年度	まもる	はしる	とめる	いかす
放置自転車台数	8,297台	4,648台	5,352台	4,000台未満	4,000台未満			○	
附置義務条例による 集客施設の駐輪場 収容台数の増加	—	7,712台(累計)	8,672台(累計)	7,200台 (累計)	10,500台 (累計)			○	
自転車関連イベント 「いかす」施策)の 開催件数 (市が関係するもの)	—	8件(累計)	10件 (2022年度～ 2025年度累計)	10件 (2022年度～ 2025年度累計)	10件 (2026年度～ 2028年度累計)				○
自転車利用環境の 満足度 (※)	2019年度に実施の 市民向けアンケート調査 結果等により指標を設定	9.9% (まもる)	19.1% (まもる)	23.1% (まもる)	25.0% (まもる)	○	○	○	○
		17.8% (はしる)	23.7% (はしる)	22.1% (はしる)	25.0% (はしる)				
		17.2% (とめる)	17.2% (とめる)	36.0% (とめる)	35.0% (とめる)				
		29.9% (いかす)	33.3% (いかす)	28.9% (いかす)	35.0% (いかす)				

※2025年度は、市営駐輪場利用者及びヨコハマe アンケートによる集計結果

2

横浜市広域シェアサイクル 事業社会実験事業評価部会 の開催状況について

第7回部会の概要等

- ・開催日：令和7年6月18日（水）
- ・出席者：岡村部会長、小嶋委員、後藤委員、加茂委員
- ・議 題：R6広域シェアサイクル社会実験の実施状況報告
社会実験全体を通しての報告
R11年度末の事業評価について

第7回部会でいただいた主なご意見

- ・全体的にシェアサイクルが普及しており良い傾向である。
- ・ポート数・ラック数を増やすことに加えて、ポートに返却ができないという点を改善していく必要がある。

3 その他
